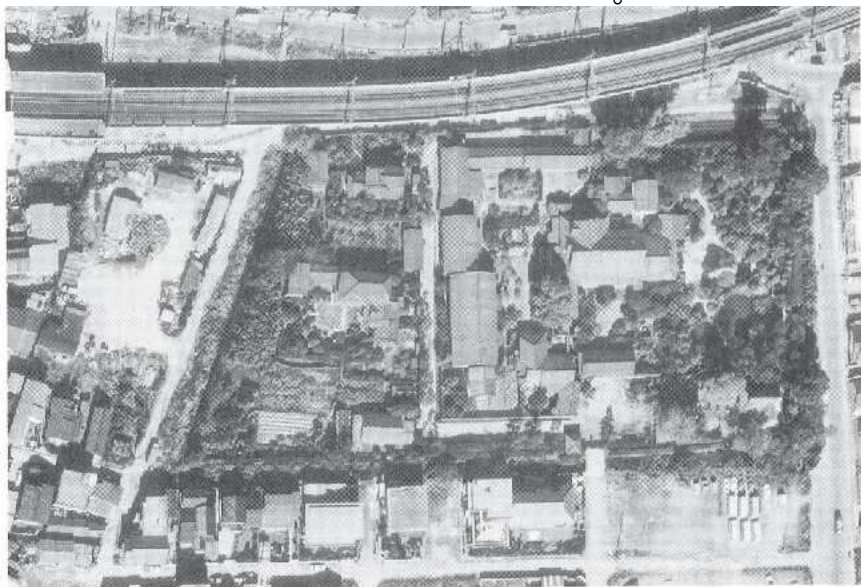


旧鴻池新田会所について

元禄一六年（一七〇三）、幕府の手によって河内平野を流れる大和川の付け替えが完成した後、旧河川敷や池沼が新田として開発されることとなった。開発は町人請負で行われたが、大坂の鴻池善右衛門もそれに参加し、宝永五年（一七〇八）には高八七五石余、反別二二〇町歩余の大规模な新田が出来上り、鴻池新田と名付けられた。それと同時に、農民から小作料を徴収し、幕府へ年貢を納めるなど、新田を経営・管理するための会所が設けられ、支配人が置かれた。

現在の会所は、東西に長い台形状の敷地の周囲に濠を廻らし、その中央東寄りに本屋が建ち、北方に屋敷蔵が接続する。本屋の南と北には、表長屋門と裏長屋門、西には文書蔵・米蔵・道具蔵・乾蔵等が配される。昭和の中頃までは、さらにその西方に役宅が続いていた。

建築年代については、古文書より本屋は新田開発当初の宝永四年（一七〇七）の建築と思われるが、宝暦九年（一七五九）、嘉永六年（一八五三）など度々改修されて現状の姿になっている。ことに座敷部は嘉永にはほとんど新しくされたようである。文書蔵は天明六年（一七八六）、米蔵は享和二年（一八〇二）、道具蔵は元文五年（一七四〇）、屋敷蔵は延享三年（一七四六）の建築であることが、棟札や建物に残された墨書等よりわかっている。



鴻池新田会所及び役宅の航空写真
(昭和44年10月30日撮影。平成7年度修理工事報告書より。)



平成7年度竣工当時の鴻池新田会所 全景

旧鴻池新田会所本屋ほか3棟保存修理工事の概要

建築年代…【本屋】一七〇七 【屋敷蔵】一七四六 【米蔵】一八〇二

【道具蔵】一七四〇

構造形式…

【本 屋】桁行二九・七m、梁間一一・八m、入母屋造及び切妻造段違、北面突出部、桁行五・〇m、梁間一一・八m、西面及び北面下屋附属、本瓦及び棧瓦葺

【屋敷蔵】土蔵造、桁行七・八m、梁間四・九m、二階建、切妻造、本瓦葺

【米 蔵】土蔵造、桁行二・九m、梁間一〇・五m、切妻造、東面庇附属、本瓦葺

【道具蔵】土蔵造、桁行一三・六m、梁間七・六m、切妻造、東面庇附属、本瓦葺

文化財指定…昭和五十五年一月二十六日（文部省告示第八号）

工事期間…令和四年九月～令和七年八月二十九日（三六か月）

修理方針…部分修理（不陸修整、耐震補強ほか）

文化財建造物の保存修理について

文化財建造物は、地域の歴史や文化を今に伝える貴重な財産です。

多くの建造物は常に風雨や雪等にさらされており、損傷や老朽化を避けられませんが、適切な時期に保存修理を行い、それを繰り返すことによって、より良い状態で後世に伝えていくことができます。

修理工事の際には建物の持つ価値や情報を失うことがないよう、丁寧に調査を行い、部材の再利用や技法の継承に努めることが重要です。



【旧鴻池新田会所 所在地】

・大阪府東大阪市鴻池元町2番30号

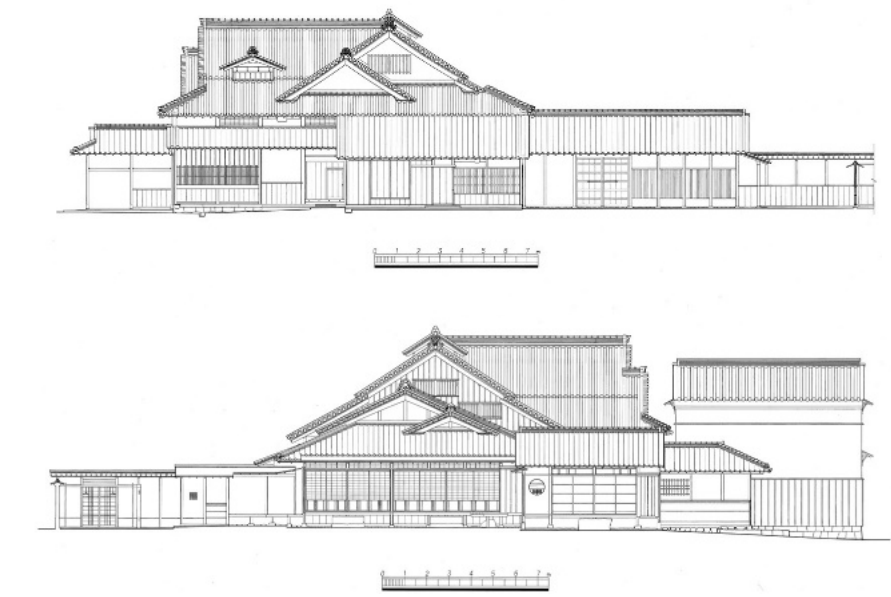
【交通アクセス】

・学研都市線「鴻池新田駅」下車、南東へ約350m
・近鉄奈良線「河内小阪駅」「八戸ノ里駅」近鉄けいはんな線「荒本駅」前から近鉄バス「鴻池新田駅行き」に乗車、終点で下車し、南東へ約350m
※おねがい：駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用ください。

【令和7年度】

重要文化財

旧鴻池新田会所本屋ほか3棟 保存修理工事



旧鴻池新田会所は平成7年に大規模な修理工事を実施し、嘉永6年(1853)の姿に復原を行っている。令和元年度に本屋、米蔵、道具蔵の耐震対策事業を実施した結果、3棟とも耐震補強を必要とすることが明らかとなったため、令和4年度より補強工事の実施設計及び補強工事を行った。また、屋敷蔵は、地盤沈下により建物が大きく北東へ傾斜していたため、併せて修理工事を行い、建物を水平に戻す工事を実施した。

旧鴻池新田会所本屋ほか3棟保存修理工事について

修理工事の
おおまかな流れ

耐震診断事業
今回は先行して実施済

← 地盤調査・
耐震診断

着手前

修理計画を
立てる

文化庁へ申請、
工事決定

← 着手準備、
工事入札実施

工事開始

事前調査

仮設工事

足場設置

解体工事

床板・土壁等解体

解体中は破損の
度合い、木の樹
種や工法、墨書
の有無などの調
査を行いながら
工事を進めた。

揚げ
揚屋工事

屋敷蔵は北東隅
の地盤沈下によ
り最大で20cm
弱建物が下がり
傾いていた。今
回の揚屋工事で
水平に戻した。

耐震補強工事

米蔵・道具蔵は
壁に耐震補強
(構造用合板パ
ネル)を設置。
本屋は見えない
箇所鉄骨等で
補強した。

雑工事

木部復旧
漆喰壁補修
など

← 竣工・工事完了

① 補強鉄骨(北面下屋)



・北面下屋は部屋がせまく、鉄骨が複雑な形状となっています。

② 鉄骨搬入(北面下屋)



・屋根を一部解体して鉄骨を内部へ搬入しました。設置は手作業で行いました。

③ はいきん
配筋状況



・鉄骨を支えるため、鉄骨の足元にコンクリートを打設しました。

④ コンクリート打設



・建物の中なので非常に気を使いながらコンクリートを流し込みました。

⑤ コンクリート打設状況



・チャノマのコンクリートを打設し、表面のならし作業中。

⑥ コンクリート打設完了



・蔵前イマのコンクリート打設状況。コンクリートは床板の下にかくれます。

⑦ 本屋二階耐震補強状況



・公開していない本屋の二階は耐震補強の鉄骨をかくさずに見えるようにしました。

⑧ 小屋裏耐震補強状況



・本屋座敷部の小屋裏(天井の上)には鉄筋ブレースで補強をしています。

⑨ 木部補修状況



・鉄骨の形状に合わせて板を張り直したり、くさった部分のみ取替えたりしました。

⑩ やしきぐらした
屋敷蔵腰板復旧完了



・屋敷蔵は土台の高さ分、周囲の腰板を延長しました。

⑪ こめぐらつくいほしゅう
米蔵漆喰補修施工中



・北面は汚損した箇所の塗り直しと同時にがれかけた漆喰の補修を行いました。

⑫ こめぐらつくいぬり
米蔵漆喰塗補修状況



・昔からの材料を用いて、同じ工法で丁寧に塗り重ねを行いました。

⑬ ふすま
襖上張り直し状況



・汚損していた襖は上張りの張り直しを行いました。

⑭ たたみ
畳表替え状況



・畳は経年により表面が劣化していたので、表替えを行いました。

⑮ ほくしよ
天井板裏の墨書



・天井板の裏側などには、建てられた当初に書かれた墨書が残っていました。

⑯ しゅうりめいさう
修理銘札



・今回の工事内容を銅板に刻印した修理銘札を各建物に取り付けました。